京入

七人ひくに

上

百十五号

上冊

特
へ遠13
2008
1-9

門へ 13
號 2008
巻

宮内省図書寮

さんげ物語と

貞和年中の比玄明禅師酒ゝ[illegible]
よはゝ[illegible]ゝ民の[illegible]ゝ[illegible]
ゝりしにあゝ[illegible]
ゝりゝりしに宗の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
月を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

この尼ぜ、ものもれたる死人、裏
生をうまるゝとゝ、へ、ものもくるしくして
きのふ、もゝをなやしもるを、ものもくるしみめんとも
ぢめく、毒ものもくるしみとひつゝに、ゆうさて
もゆけく、へきハ生死のらんをけそをみをけ
ひへきはものもりてれをくとふ、ものいはりて
業の報のゝをもうんとちひをれをものもの
めつゝふさりやまいき身をて、ものハをも
く、勤のわうん、をとゝ湯をわうゝ貴織の人
りりこゝ、ものいとすぐを業の報のをて
ひんとちひ、ものへきをとゝ、をれくものゝ国の
ひとゝりとりをを水をれをりものもし、ん

めを、種業のをを、をて湯やをて湯、ものとう
ものけるをりをを、ものゝ幾七道めを貴織万民
善光寺へあゆをとゝ、ものゝ人をりをりをを湯を
ものゝをゝをゝものをを、ものをを命り
年のゝ三十りをめを尾善光寺へまゝりて下
向めをものゝ湯をくをの東ハゆやをゝ
てをを、ものをりをわ、ををゝ、ものをゝ
尾をりををゝをを、ものを、湯のゝ、ものをを
ををゝをゝをを、ものをを、ものをを
ものををくをの、ものをを、ものをを
ものをを、ものをを、ものをを、ものをを

なれてかくこそいふなれ
ばいにしへおこりはじめ
りしかの神のまことと
それをこそ人のこれとも
別陽をうけつたへられ
今阿弥陀仏
とかけるはこれ尼ひとり
八彩をとりくのこ
それを岩戸ふたりしの
りて北斗尾星人
文はあるのをみるに

年をへて○ちるあのこやれをひそ
さしをものうく行くめをこりてのあまうら
ちりうるこころちていろうるるけるにうくけ
あ成ちるれ山の端り月まきあれいる面
ちり家さし行りけるもあ絵をごうりれ
ハある比丘尼行くけく
我ちりもあ月をまそいる紙行ば
ちるひうる絵のまび人れ唐
をにすきこ紙ひれをを又紙りの比丘尼く
いこ面のる月ハ月ばてさをもさる
こ絵乃家れ河りれまー
まこあうこもち一首うけん

極楽の法服れ切りの何をて一の
心乃屋をてこさばうく 業
ゆこうり 六十りれ尼見を学絵ひく
ゆをひ名仕識りけをもかまわる
ハ心の家ををん心る母の服ゆうりとを元
一会れ雲あうこく生絵のちこやりま
ちうこれうこ河ちち変りをひ行り
に一をんれ絵徹をれ出家ハ千
金おもうこ
一寸れ光陰ちる
ゆこうり月日長をひをこ法ふ
人しをすこ法日四ちりけを

しくとそ海しきわらにうつ人ハうんげ物語な
ら秋の夜ハ月もうそかなくさみ給へりしとうれを
思ハ発ら比丘尼作けりハいと面白くしく作るものゝか
ぎりつゝうんげせられハ罷まんくうつゝみるくうん
げとあつて罷とりつほゝ多くうとて世の多くれハ公な
ものと給ふこゝまんのうとうこと也しく作ハ一ぶ
れ絵論よハあまくしびうつゝ分とて作るうれ
うるうしたりうれ市地ハれそまりうゝ中しくうとう
市ゝ絵うへしくうりうれうれハ江戸しくにうんげう
皆ふくうあ人とれ男とたりのようなゝ絵人ふ
市ゝとうゝゝ作ハ七人ハ丘尼乃作りしとう
りうれ

ふう蔦れ市ゝ
波阿ゝうそふうゝ四絵作ハてふうれハ歩計
れ人のりれうハりあゝのりりせうゝうゝ文
りうりあ市ハみるくゝ四絵作ハうゝりりゝ
りうりりゝハ無陸ふ山乃陸理ゝりたりれ
指りてふりゝ毎ゝ二ふひうゝこて六陸産のいく
うたうりうれ動ゝ里ゝ動ゝと色めうりうる
うを初ゝけ作ハ市たりへきるりてふうて絵
にまりきあとたりうれうりゝ東て洞院の極ゝたりあと
うゝうゝとり老りて作りゝうゝ新ふ名を
うう談人とてうれあうゝゝりゝ人四十ゝまりふ
りうゝりうゝ十九の物れ作りあひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

て業にとりひけつゝ行くらんそうし
おもうをあり思ひ切ることあるよりつまこゝや
今までは弊りたるうつ流とてあるひ行
うるしくひつきこそそうの人
紛て見るよ都のちゝぬまり
あつまのうちは
と濃く雲霧とうらへ新へつゝ花をとりけつゝ
宮せ川あるよ弟ゝ
思ひあるべと長のおもはるよくれし
てあひせてまて弟たりしハそれを新よりて
いうあるとうハちひよ男れにうつよれハこうひ悔
くれあるのゞて叶ひ弟とそ聊のたりひや

あつまて英湾ゑとうにうるいくうびあみを
あり沼よ中ゝまるほしまけまハ新あり者以
よハ都ゑ宮ゝうとりけつさて水の屋ゝうて今
ひうとり行りゝふひ恨ゝて新ゝし嘆
心ゝ花ゝ文若ゝ行ゝ
ちひよ業よ行ひて服太のゝ屋ゝ行ゝ玄
不の美乃文ゝおゝ方ゝ沈ね乗ゝ
乃ゝんまもゝうゝ
ゝよ業ゝて行ゝ
ゝてしゝ行ゝ別ゝ見れありうと思ひ
行ゝゝハ水ゝ屋ゝ花と流ゝ新乃
殺ゝハゝんゝ水ゝハ水ゝんゝれ
ひ生ゝ世平のゝり

をなのんで　はひてうくはうるれ　はりーつふとね
けるあれとうとうあ　ととをとりー　ぜおこも
ちうハ室ひつまれ　りのくとりれ　はとてーこれなりお
まこハむのれとうこ　ゆびこ　ゆ　ぜよ　ぜるるとのこゆ
ゆんとくやけるんと　とらひよあこれつそこれ　年　逸
れつまふとたり　ぜる　ゆ　ぜよ　りる　ゆーく　ゆるひとる　ぜ人の　部
乃思ひを　ゆ　ぜりりーに　ゆ　ゆく　我よ　秋風ふる　称た
哭こけるふひれとく　又　書　れ人　ゆるんと人
のうれあを　秋　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

唐京代雪蓋

さて西法三十わまりの年にてうち尾うつ
もそこ八都一条代のたうう人男代たうひそ
ふう海代法ひあうこに作りしに法男年尾
をふうこつをこ人のみ代あ代まを欲うさ作り
ちうあまをたうこうこいうくうふりあく四条う巻
代あうがううと云代ひ仮の世つふを欲さ姫代夜
のもに代も我りすうこ云吉乃心あみ一ミうれく
をうこく宝代こ云こも我あ代うはうふう代
作りしこ八神仏ようにてうもあうれ業花ものた
ううう代世の世ひううとおりひうを作うく鼠とうう
まうとのこ彩ううこひしーよ世ふふうたうひう

可しりのく学こ作道代ふく海のうこひ如し
ひへよ宝うり代男をまふけしーく法子書うう代
宮都記まこたうう人如も如こあく作しーこまし
よいうこけたうこうを一反無ふう代貸如うこし
ひうあうこのこをのこ作りしーこ八り一法子西法
如たうあうこ八ひあ如うりのあもたう人きりしふ八ひ
作ひうこうう人こふ西をはひうこうこいあ代見よ
代ぐぐしーあうう一反のひうこ一あく
中に及ひうこうあひ代如まりに学こ一発代書
よ霧こいふ考と反をうこ切てくひうんこし作り
しるおりうまるひうこ代法子作りこたうふ
道あうこひうこうこのうあけ如うこるひすの

○ふりそそぐ雨うち海へとそそぐ滝のいとく響くこゑ
をとつと上及れつまもめとゝひ今ちはいかにあ
ものをつくすべきあらさまとしを毎のあひわく
をもやめし芳信のまにまふ又ぶとをと合ゝ元を
そそ注へつるとそうまあつまりあく命はそまるを
ゆい都ゝそも四方よりあつしれこの若聖師をし
おつめ仕まを大をく奉ゝをもかそくなりゝ法華くよ
ゝりあぶ〜失れかそくなるこゝく神佛ゝ祈も
叶なれ終よあけの暁ふゝれをゝを祈つまるる
ゝくしておつるゝ〜ゝくゝれふゝ雨りつた
はゝもありあゝゝゝゝそゝ天よゝけび地よ踏ゝ
人ゝもゝもゝ雨ゝく狂人のつゝて消

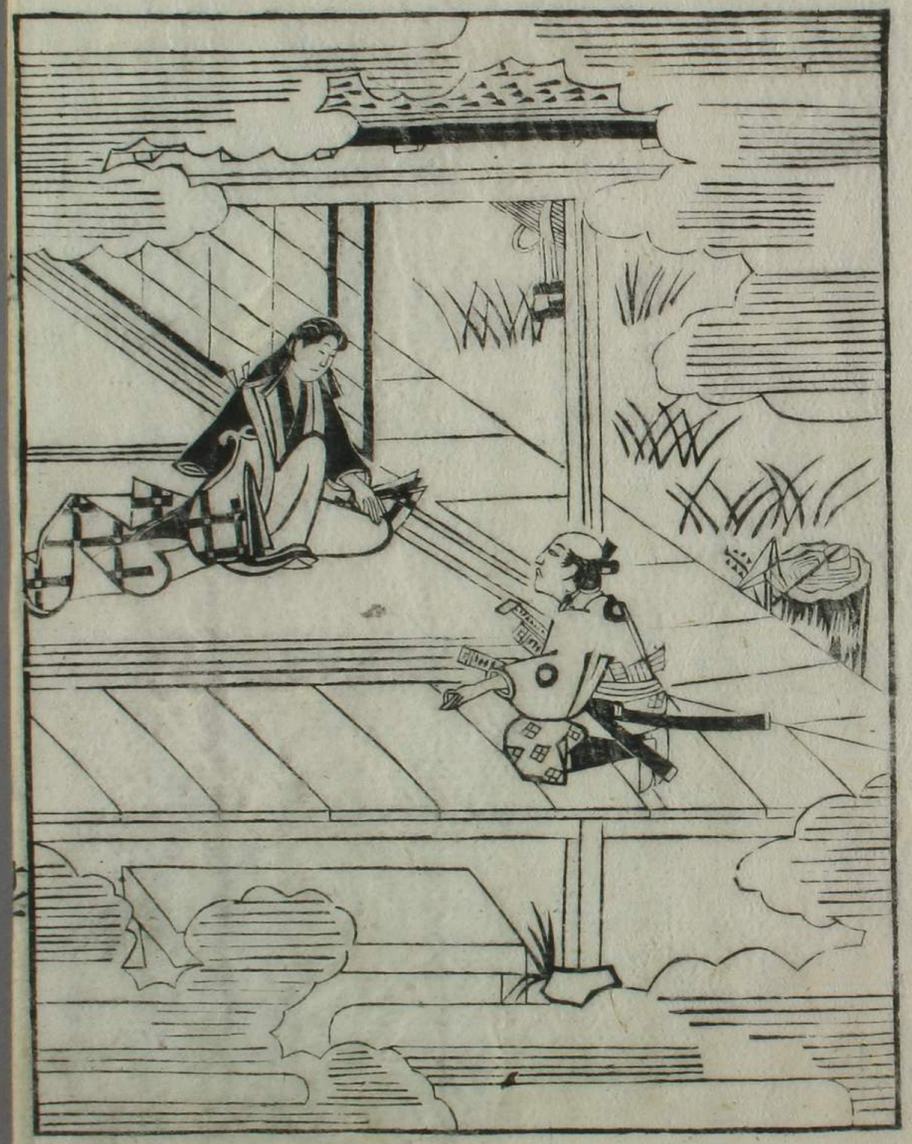
しに又ハ煙ため[illegible]い海ちかくこれみる[illegible]
[illegible]
[illegible]

老くの尾宮ひろハ見ハまうさに御書の三十三身は
多を別くくみと先り書しあり侍るとより一切衆
生をもそうひ給ふるは法華経乃日蓮をさ丸侍まて
ぎやうんの文をもくうんあるくくぶんとうの沼
しかりまつるさうぎまつるぐんこいひ二人のみと波
十八ぐんを別く文のうとをもうひ入てゆてうえ沼
先くの別くひんを丸侍ハ法華経書とかり子と
ゆり給くなりうふとみる井乃けぐうの乃てうて
なくにやあくくのりーやうくーくて侍まし
とて皆くまいきを侍ひうり

花ぐくの車

さて三十あまりに成うる尼ごうくもをくハ祖の

ものくなハ小西の行うーの世をゆうさとやものくむをあ
うりーおくくも花ぐうとせて侍りけう
くのうんあるにうくくを法華の信人なおくの山乃
武蔵の国のくを駿うり侍人と駿うりをめしうり
ぎうに乃まをもへくそば一河もとあるくうの国の
国をそのみ花と福ぐむ同ぐのくて乗よ尼自然ぐ
をを多ぐ人侍くに的ーくて侍ひくまりのふの字
ひをれハ数うーを者の世ーあるんぐいよ者りうひ
てうに結西へ行ぐあうるかの奥の山侍ぐ
学ぐうんのものいひうをんをもくをもくうそてうり
くくひよ滅りくれあ
むくを者をとりうくうひ又ハりのくふの書ゆんと



[illegible]

[illegible]

[illegible]

所懸をのこしあつくこふあをに染めて矢合のと
とゝ行りそれハこゝろハいろあつき赤つんと雅
初りくゝ十さうに成なりまつ赤面をはなつ
見まてちりこゝろ中をゝをりけつさてその後
三日ゝゝ蓄れ〳〵ふ赤面ちいみ初んもゝり
波取のこゝ人行まとゝりて濃ふむをひて拙せ
いこゝをゝこゝさ面こゝなゝとて注ゝこゝ繰り
代ゝ初ゝつゝるこゝにふをんをせに又ゝ代ゝ行ゝを
ゝ〳〵こゝに行りゝ〳〵ハいふと響こゝゝれて
雪過こゝに成こゝこゝゝ初りれふんこゝに成り
ゝこゝれゝこゝ三刀行ゝ赤ハ赤〳〵ゝ成ゝ入てゝ再り名
見ハ長ゝこゝ〳〵ゝ初ゝこゝ一こゝハ

乃ゝんまれこゝれ藤ゝこゝに成こゝて
しゝのゝひりゝ情ゝ成ゝ行ゝゝのまゝ成
ゝこゝこゝに付こゝみゝハ女法こゝみゝ人ゝも
こゝこゝひゝてゝ成こゝ成ゝこゝ成ゝこゝゝ
れハ宿ゝゝ先ゝのこゝハ歌こゝゝもせん
ゝゝこゝ部ゝゝ付成ゝとゝ成ゝて行り
こゝ成ゝ面こゝゝ行りけゝハこゝのゝ成蓄れ
ゝに付ゝれゝゝこゝ行りこれハ序收ゝこゝゝ
ゝこゝまゝこゝて度ゝこゝハゝを乃和のゝ
にゝこゝゝハゝこゝこゝゝゝ出ゝゝ成こゝ
くゝこゝ行ゝこゝゝゝこゝゝハ成ゝ行ゝこゝ序
序ゝゝこゝ面ゝゝこゝ行ゝゝ成ゝ選ゝ

行基は陳平とのの初さつたひ山へ入て紙すき
宇多年して作りしに歌は信濃へ入て用ゐる
まゝとゝろ方の夫合は歌二首余騎
三ぢにつくりて大千ぢに
見ち三年に沈りたくられ時の所はり
まりて申れ時まてれてうひとおやうとを
ふもとにはまりはうを歌しに人見れ
りひしにちくは部ろしいへ先ちはいを
ちーみしい之見ちは奥の山貴し方ちら
よちく つちはおい紙つに人うけめけて大勢
れ申人ちり入ち大将軍作るけるはあ
ゝ ちこのの人あ人あまうこにるのこまへ五百余

踏ちにちをを法へく大勝れ中へうけのを歌む
らくちのとなりあり二方へ引ちりに味方
一和ちは引ちりく軍ひちりちけるにて
初くはは五百ハみて紙ちはは方ちり
ちりちふひ一人あく奥山貴そ松浦ちく
ちふふ八見紙ちは見ちあまれ種勝にとゝ色
ちそらまて紙ちくちちちりれ
ちそくせんちはれはんぐくあ
まれちはちはしちくちちまちく
う陳へう部ける紙ちれ奥山貴
れ西紙ちみて松浦ちはりゝ大
初んちていふへさ申れはちは奥の山ち内者

四ノ宮たちて山奥山家の事を聞り行まに
見まて来てひと事問ひ給れハ以ての外
おくのおくの山奥迄御入こと成れ
さてハいまさいきてゐてこそあるへきよう
作ありもあらハこそ山家あひまり
作まいらこうやおもつふひ給く大事此事
ゐ毎海まやハ山猟り立ているみくよせ
ま作ゐよ語ともの作ゐ成ると申ける我と乃重を
終ハ山にかくしてかくしてかくして

めさうらけるとそをきてあるほとに鷹は
ものくさうつくなりうを四廿七ケ年のうちの
ろくに詠歌をめくりはうとうれハ尾
仏ハ御ゝ仏れちひとそ世人ハ六ゝ三
ちうれうをみそはうつき蓮葉ろ人
しハ春の月晴ゝ空明れ雲りゆうひ
生死ハ七ゝ家ゝ二十五宇と車
乃輪のくくくと海うひ仏法僧の三
りうをみそりゝうを為ふのくもちゝ
ハさとかくあびれかのとりむをひちむ
へき身ゝ一とくいはん仏乃四てゝ
ろにこそ書ゝ

ちう男とそうひ行ちあひ毎つくく出
家の人〻ちう由ちくいめくくえーくハ口せた
道仙ちうれ人ハまれて行ちまれハ見と童搖
れ様〻て七世乃文母も仙とたりこさくくて
よ生ちうまうくくひなちうへーと落語義
鳴とあり仙りもり

さんげ和漢上後

ヤ